

食からアンチエイジング

～ 医・食・農の連携で日本の医療費削減の可能性

「食」は単にお腹を満たすのではなく、美味しく頂き、健康な体を維持し、時には疲労や体調不良を回復させる力がある。美味しく健康な「食」こそが、アンチエイジング【antiageing；加齢に伴う症状の予防と治癒】や、人を健康にする事で、増大する医療費削減の可能性を持つ。超高齢化社会といわれる現代の日本では、高齢者の介護や医療費は増大する一方である。老化や病気、未病対応を食べ物、特に野菜や果物が持っている「抗酸化力」「免疫力」「解毒力」で予防できないだろうか。野菜や果物には、ヒトの体内で作れないヒトの生理機能を円滑にして健康を維持増進する為に必要なビタミン、ミネラル、多種類のポリフェノールなど機能性成分(フィトケミカル)が含まれている。「抗酸化力」は、人間の細胞が酸化していくこと、つまり老化を防ぎ、そして抗酸化力のある「食」は健康寿命を延ばすと期待されている。



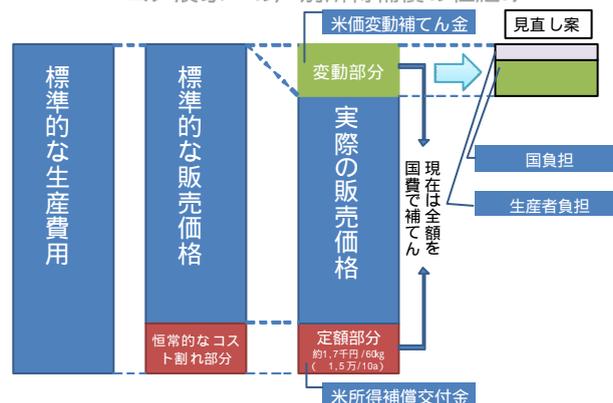
実は「食」と健康について研究し、情報発信をし続けている会社がある。デリカフーズグループ(東京都足立区)である。同社は、産地から野菜を入荷し、飲食店(ファミリーレストラン、ファーストフード、コンビニなど「外食産業」「中食産業」と呼ばれるところ)に、ホール野菜・カット野菜などを届けている「業務用の八百屋さん」である。顧客のニーズに応じて工場野菜をカットし、店で使いやすい形にして届けている。ただ、普通の八百屋さんではない。同社は日本全国の産地の野菜・果物を、ビタミンC、糖度、硝酸イオン、抗酸化力(DPPH法)の4項目を、10年以上にわたる2万検体の野菜の分析結果により、美味しい野菜や健康な野菜、旬の野菜は抗酸化力が高く免疫力がある事や、抗酸化力の評価方法を独自に確立し、メニュー提案や産地を交えた勉強会を行っている。

先月26日、デリカフーズグループ主催の「ファーム・ツウ・ウェルネス第3回セミナー」、また28日にはグループのデザイナーフーズ(株)(名古屋市)において、「第8回生命食セミナー」「野菜とビタミンの関係」「食材」と「食べ方」も開催された。「薬食同源」という言葉があるが、バランスの良い食事は病気を予防し、薬と同様病気も治すという意味だ。生命食セミナーでは、丹羽先生が「健美食同源」を提言していた。健康と美しさを保つもとは毎日の食事であり、健康も美しさも食事から生命を養い健やかな長寿をもたらすもので、その本質は同じだということ。どうやら野菜・果物の栽培方法や中身だけでなく、食事の仕方にも秘密がありそうだ。(次ページ上段へ続く)

戸別所得補償の検討進む

5月2日、民主党の農林水産部門会議の戸別所得補償検討ワーキングチームは、戸別所得補償制度のうち、米価変動補填金を見直す検討に入った。米穀生産者に対する戸別所得補償制度は、「定額部分」と呼ばれる水稻作付面積当たり1.5万円/10aが交付される米所得補償交付金と、基準価格から販売価格と定額部分の差額を補填する「変動部分」と呼ばれる米価変動補填金の2つで成り立っている。(次ページ中段へ続く)

コメ農家への戸別所得補償の仕組み



抗酸化力の測り方、見方

今はまだ、抗酸化成分が体内に吸収され、活性酸素が消去された効果を測ることは困難だが、食品そのものが活性酸素を消去することを測定することは出来るようになった。抗酸化力の測り方には、DPPH法、ORAC(オラック)法、ESR法の3つがある。米国ではORAC法で測定した抗酸化力をチョコレートやお茶など既に食品に表示している。抗酸化力は、野菜や果物の品種によっても、栽培方法(露地栽培、植物工場)によっても大きな差がある。(次号に続く)

(前ページ下段より続く)

今回の検討は米価変動補填金に関するもので、現行では当補填金で賄われている「変動部分」を、一定額の生産者の拠出と国の助成で造成した財源から支出するという内容だ。ワーキングチームでは、資金造成額のうち生産者が2割、国が8割を負担する案が有力となっており、生産者拠出は「変動部分」の助成を受けるための条件となる模様だ。

2012年度は米価高により米価変動補填金を使用する必要がなく、国庫に返納する見通しだが、制度が見直されれば、翌年以降は生産者拠出と併せて特別会計に助成金を複数年度積み立てられる。民主党は予算配分の効率化や財源の安定化につながるとして、今後自公協議に向け具体案を詰めていく。

MAC 掲示板～人事異動～

日付	氏名	新	前
6/1	佐々木浩二	福岡支店	本店特販部

アルコール消費ランキング

総務省統計局が集計し、発表している「家計調査(二人以上の世帯)都道府県庁所在地及び政令指定都市別ランキング」という長い名前のランキングがある。『どのような品目でどの程度の地域差があるのかを明らかにするため』の統計だが、このランキングにより宇都宮市で餃子の年間支出額が全国1位だと知られるようになったと言え、**「ああそういう調査か」と頷く方もいるかもしれない。**さて、今回はこちらで公表されている平成21～23年の酒類の都市別消費ランキングを紹介する。

酒類全体の支出金額トップ3は **青森市 盛岡市 秋田市**と東北地方がならぶ。日本酒の購入数量・金額はともに日本のコメどころの県庁所在地である新潟市・秋田市が1位、2位を占めている。

焼酎は金額・数量共に宮崎、鹿児島がやはり上位に入っているほか、北国の青森・秋田が数量では上位に食い込んでいる。焼酎は国民酒として全国に定着して久しい。洋酒ではビールの支出金額・消費量全国1位が京都市。暑い京都の夏を乗り切るのにビールが必要となるのだろうか。またワインは東京都区部や横浜市が1位・2位を占めるが、ウイスキーは金額・数量共に青森市・秋田市が上位を占める。意外な発見があって楽しい。

最近「休肝日に科学的根拠は薄い」という専門家のコメントに接したが、これはいくらでも酒を飲んでも良いということではなく毎週の酒量の適切な管理が肝要とのこと。上位になった地域の方々も、是非ご自愛いただきながら酒を楽しんで欲しい。

【酒類の支出額・数量平成21～23年平均 上位3都市】(出典:総務省統計局 家計調査)

酒類全体			ビール		
	金額	数量		金額	数量
青森市	56,580		京都市	20,177	37.81
盛岡市	53,894		札幌市	17,526	34.40
秋田市	52,870		盛岡市	17,394	34.24
清酒			ウイスキー		
	金額	数量		金額	数量
新潟市	11,413	14,077	青森市	2,878	2,666
秋田市	9,868	11,978	秋田市	2,482	1,938
松江市	9,657	11,520	圭浜市	2,088	1,536
焼酎			ワイン		
	金額	数量		金額	数量
宮崎市	13,492	18,558	東京都区部	6,560	4,436
鹿児島市	13,355	18,218	横浜市	4,507	4,301
松江市	10,558	16,696	甲府市	4,498	4,062

スーパームーンをご覧になりましたか? 月が地球に最も接近する時と満月が重なるスーパームーンが、5日から6日にかけて世界各地で観測されました。東京からでは水平線近くの月はなかなか見られませんが、それでも普段よりとても大きく、明るい月明かりがとても神秘的でした。

編集局長: 小田原次洋 アシスタント: 助川

電話: 03-5275-5511/E-mail: macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp